

令和6年度
(2024年度)

1兆円をこえる予算をどのように使い
どのような成果をあげたのか

京都府決算をチェックしました!!

*「国民民主党・日本維新の会」議員団から決算特別委員会に所属する6名が審査・質疑・提言しました。

令和6年度(2024年度) 京都府一般会計〈歳入〉について

A 府税	3,079億円
B 地方交付税	2,039億円
C 地方消費税精算金	1,282億円
D 国庫支出金	947億円
E 地方譲与税	575億円
F 使用料・手数料	107億円
G 繰入金	182億円
H 諸収入・その他	2,000億円
I 府積	665億円



好調な企業実績による法人税の増加、物価高などに比例した地方消費税の増加、これらにより〈歳入〉総額は前年度に比べ約78億円アップ

〈歳入〉の基盤となる経済情勢の先行きが不透明な一方、
社会保障関連の〈歳出〉は増加するはずであり、
厳しい財政状況は今後も続くと思われます。

令和6年度(2024年度) 京都府一般会計〈歳出〉について

J 民生費	1,874億円
K 教育費	1,761億円
L 商工費	1,626億円
M 土木費	854億円
N 警察費	832億円
O 総務費	796億円
P 農林水産業費	227億円
Q 公債費	1,206億円
R その他	1,608億円



社会保障関連の経費、年度内に使わず残った新型コロナウイルス対策関連費の国庫返還、これらの増加により〈歳出〉総額は前年度に比べ約159億円アップ

洛央小学校・下京中学校・日吉ヶ丘高校を卒業し
二人の子を夫と育てながら豊園学区に暮らしています

Shiho Tanaka ● Profile

1994年下京区(豊園学区)生まれ(31歳)。京都カトリック信愛幼稚園、洛央小学校、下京中学校、日吉ヶ丘高等学校を経て進んだ京都府医師会看護専門学校の卒業後、新京都南病院に入職。集中治療室(ICU)看護師として勤務する一方、カンボジアの支援活動、地域こども食堂の運営に携わる。2022年11月に第一子、2024年5月に第二子を出産。2児のママの実感を政策の立案・提言に活かす。



日々の活動や子育てといった現役ママ府議のリアルを発信中!!

“田中しほ”のSNSやご相談フォームをまとめたWebリンクを作成しました。
右のバーコードからアクセスいただき、ご意見ご要望をお気軽にお寄せください。



京都府議会〈下京区〉選出議員

田中しほ事務所

〒600-8267 京都市下京区御器屋町51-3(七条大宮上る西側1階)
Tel.070-8468-8865 Mail tanaka0721shiho333@yahoo.co.jp
https://lit.link/tanaka_shiho

Shiho Press

国民民主党・日本維新の会 京都府議会議員団

田中しほ通信 November 2025 Vol.09

京都府議会〈下京区〉選出議員 田中しほ 府議会ニュース

発行日/2025年11月00日

田中しほ事務所 〒600-8267 京都市下京区御器屋町51-3(七条大宮上る西側1階)
Tel.070-8468-8865



31歳
2児のママ

京都府議会9月定例会一般質問の初日に登壇し 子育て世代に優しい府政の実現を訴えました

令和7年(2025年)京都府議会9月定例会一般質問の初日(9月19日)に登壇、京都府と京都市が連携して今年7月1日に開設した「きょうと妊娠から子育てSNS相談」と「きょうと妊娠SOS」について西脇知事と健康福祉部長へ、保育園などへの安心・安全な送迎につながる「子どもを乗せた自転車の運転マナー順守」と「ヘルメットの着用促進」について警察本部長へ質問しました。



そこには共働きで長女2歳と長男1歳の二人を子育てしている私自身の実感もしっかり込めてあり、皆さんから前向きに取り組む旨の賛同をいただきました(内面記載の質問主旨と答弁概要もご参照ください)。

その一方、孤立した母親や望まない妊娠をされた女性には一人で悩みを抱え込んでしまっているケースも多く、答弁内容の早急かつ着実な実施を求める必要性を強く感じています。

また、そのような方々の「心」と「暮らし」の両面を着実に支える仕組みをつくり、すべての子育て世代に優しい京都府政の実現をめざす“田中しほ”へ引き続きご意見・ご要望をお寄せください。皆さんの声を力に、一歩ずつ進んでいきます。

「きょうと妊娠から子育てSNS相談」について 今後の充実と周知に関する確約を得ました

田中しほの質問主旨

7月1日に始まった「きょうと妊娠から子育てSNS相談」は助産師、保健師、公認心理師、社会福祉士といった方々が対応くださる心強い仕組みです。但し児童相談所への虐待通告が年々増加するなど、孤立して精神的に追い詰められた家庭に支援が届いていないケースも見受けられます。相談窓口を「開設して終わり」にせず、今後どのように充実させていくのか。西脇知事の方針をお聞かせください。

西脇知事の答弁概要

多職種が連携するチームを構成しましたが「開設して終わりにせず」という意見には賛同します。引き続き相談対応の質を高め、誰もが安心して妊娠・出産・子育てのできる環境づくりを推し進めていきます。

田中しほの質問主旨

この仕組みにとって大切なのは「SNS」で相談できることの周知だと思います。「一人で悩まないで」というメッセージをどのようにして届けるのか。受けた相談を支援につなげる体制をふくめ、健康福祉部長からお答えください。

健康福祉部長の答弁概要

保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、こども家庭センター、医療機関など、府内5,000箇所以上にチラシや案内カードを送り、掲示を依頼しています。なお相談は匿名ですが、内容によっては同意を得て氏名・住所を確認し、支援を受けてもらえるようにしています。但し万全の体制とは思っていないため、今後も広報と支援制度の強化を図っていきます。

行政運営

きょうと妊娠から子育てSNS相談
「LINE」でのご連絡はこちらから



「きょうと妊娠SOS」に関しても 積極的な広報展開に賛同してもらいました

田中しほの質問主旨



若者が気軽に「LINE」で相談できる「きょうと妊娠SOS」。これは望まない妊娠をされた方が抱く悩みに手を差し伸べる良い仕組みだと思いますが、その存在をどのようにして知らせるのか。若い世代に向けた広報活動について、健康福祉部の取り組みを具体的にお聞かせください。

健康福祉部長の答弁概要

京都府内すべての高校に「きょうと妊娠SOS」案内カードを配布、生徒一人ひとりに渡してもらっています。また、学校と接点のない若者にも存在を知ってもらえるよう、ボランティア団体に協力してもらい、繁華街で案内カードを配っています。但し広報活動にゴールはなく、今後も積極的に展開していきます。

行政運営

きょうと妊娠SOS
「LINE」でのご連絡は
こちらから



子どもを乗せた自転車の安心・安全の確保を 最重要課題のひとつにしてもらいました

田中しほの質問主旨

子どもを乗せた自転車の「運転マナー」や「ヘルメット着用」への意識が自然に高まり、小さな命がしっかり守られる。こうした安心・安全な状況の確保に向けて、京都府警は今後どのような対策を強化するのか。警察本部長の所見を伺います。

警察本部長の答弁概要

「秋の全国交通安全運動」で自転車の交通ルールを理解してもらうためのイベントを行い、会場では自転車用ヘルメットの着用体験もしてもらいます。さらに今後も「子どもを乗せた自転車の運転マナー順守」と「ヘルメットの着用促進」を最重要課題のひとつとし、啓発活動に努めていきます。

